

仙台市基本計画

2021-2030

基本計画は、仙台のまちづくりの指針です。

この計画では、仙台の目指す都市の姿と、
その実現に向けた施策の方向性を示しています。

誰もが心豊かに暮らすことができる未来に向けて、
先人が培ってきた資産や知恵を余すことなく活かし、
多様な主体が持てる力を十分に発揮できる「新たな杜の都」として、
仙台に関わるすべての方々とともに挑戦を続けていきます。

挑戦を続ける、
新たな杜の都へ

～“The Greenest City” SENDAI～



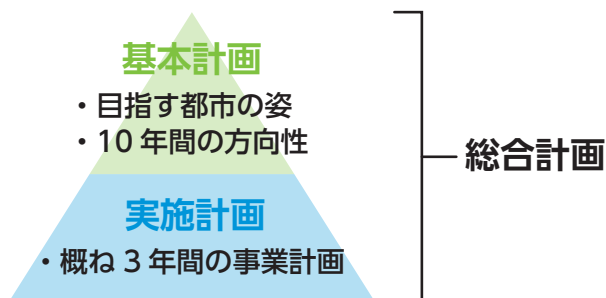
令和3年3月

仙台市

計画の構成

基本計画とは

- 基本計画は、21世紀半ばを見据えた目指す都市の姿と今後10年間の取り組みの方向性を示す計画です。
- 基本計画と実施計画（概ね3年間ごとに策定する中期的な計画目標と具体的な取り組みを示した事業計画）をあわせて総合計画と呼びます。

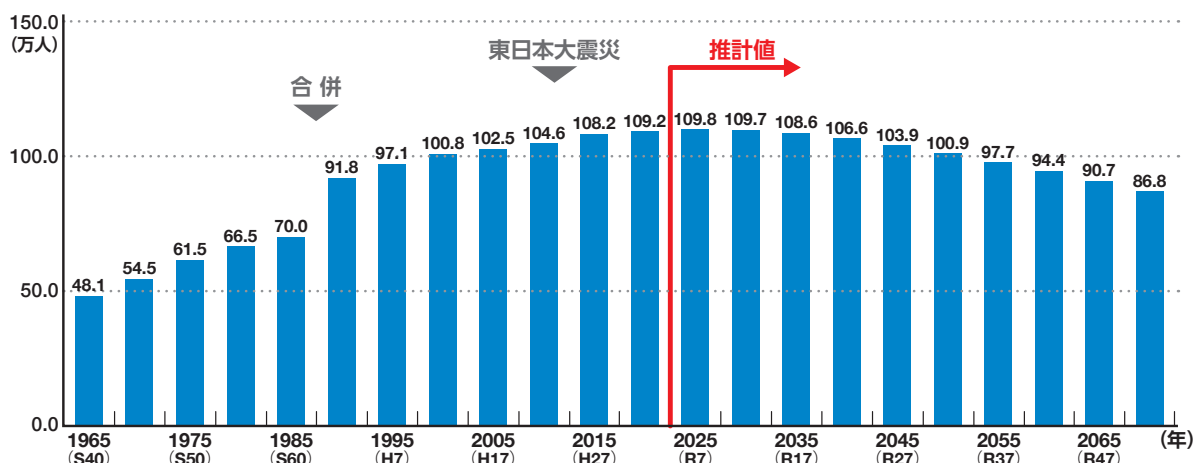


計画期間

10年間 令和3（2021）年度～令和12（2030）年度

将来人口推計

- 仙台市の人口は近い将来にピークを迎えた後、緩やかに減少を続け、2050年から2055年にかけて100万人を割り込む見込みです。少子高齢化が進み、人口構成も変わることが予想されます。
- 基本計画期間中に市全体の人口が大きく減少する可能性は低いと予測していますが、人口動態は地域によって様々であり、地域特性に応じたきめ細かな対応が必要です。また、人口減少が進む中であっても、まち全体の活力を生み出すための取り組みが重要です。



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を踏まえて

これまでも戦災や公害、自然災害など数々の困難を乗り越えてきたように、今後も起こりうる危機に際して、デジタル技術を積極的に取り入れるなど社会の変化への対応力をさらに高め、安全安心な生活基盤を守り抜いていきます。

また、人々の暮らし方や働き方が見直されている中、緑豊かで住みやすい「杜の都」ならではの暮らしの質に磨きをかけ、それを内外に発信していくことで、選ばれる都市を目指します。

まちづくりの理念

挑戦を続ける、新たな杜の都へ ～“The Greenest City” SENDAI～

- 連綿と受け継がれてきた「杜の都」のまちづくりを基盤として、世界からも選ばれるまちを目指し、まちづくりの理念に「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City” SENDAI～」を掲げます。
- 副題の「“The Greenest City” SENDAI」は、「杜の都」と親和性のある「Green」という言葉に、様々な意味を込めるとともに、最上級を表す「est」を付すことで、世界を見据えて常に高みを目指すまちづくりの方向性を示したものです。

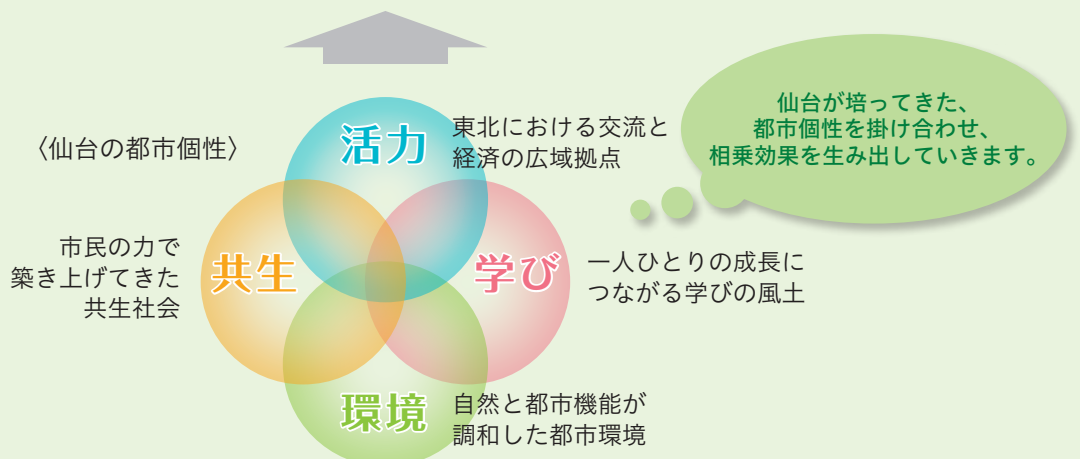
※ 「The Greenest City」という言葉は世界的に使われ始めており、都市緑化率や環境問題への取り組み度合いなどの指標も盛り込まれた、都市の住みやすさを表現する言葉の一つです。

目指す都市の姿

- 協働によるまちづくりを積み重ね、これまで培ってきた仙台の都市個性「環境」「共生」「学び」「活力」を見つめ直し、それぞれを深化させた、以下の4つの「目指す都市の姿」を掲げます。
- 4つの「目指す都市の姿」に、それぞれの「Green」という言葉の意味を重ね、目指す都市の姿を実現することで、「The Greenest City」に近づく、との想いを込めています。

Green ⇒ 自然 (Nature) 杜の恵みと 共に暮らす まちへ	Green ⇒ 心地よさ (Comfort) 多様性が 社会を動かす 共生のまちへ	Green ⇒ 成長 (Growth) 学びと 実践の機会が あふれるまちへ	Green ⇒ 進め！ (Green Light) 創造性と 可能性が 開くまちへ
--	--	---	--

- | | | | |
|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ◆ 豊かな自然・市民の暮らし・都市機能が調和した、風格を備え住みよさを実感できるまち ◆ 災害対応力を備え、国内外の防災力の向上に貢献できるまち | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 心と命を守る支えあいのもと、多様性が尊重され、誰もが安心して暮らすことができるまち ◆ 一人ひとりが持つ多様な価値観・経験を社会全体の力に変えるまち | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 子どもたちが健やかに育ち、学ぶ喜びを実感できるまち ◆ すべての人に成長の機会があふれ、東北や世界の未来にも貢献する人材を次々と輩出するまち | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新たな価値を生む創造性が開かれ、地域経済の活性化・社会課題解決・東北の活力につながるまち ◆ グローバルな経済活動や多彩な交流が生まれるまち |
|---|---|---|---|



チャレンジプロジェクト

チャレンジプロジェクトとは、まちづくりの理念に基づき、目指す都市の姿の実現に向け、仙台の強みや現状を踏まえて重点的に取り組むもので、以下の8つを掲げています。
チャレンジプロジェクトは、私たちが見たい未来を、私たち自身の手でつくる、挑戦の舞台そのものです。

① 杜と水の都プロジェクト

目標 「杜の都」の風土と文化に巡りあえる都市空間をつくる

「杜の都」という言葉に代表される自然と調和した都市空間は仙台の歴史的な財産であり、この魅力をさらに磨くことで、みどりをもたらす様々な効果を実感できる居心地の良い空間を広げていきます。加えて、「杜の都」を形づくる川や海などの水辺に、より親しめる空間をつくることなどを通じて、たくさんの人が集い、交流し、たびたび訪れたいくなるような魅力的な都市空間をつくります。

実施の方向性

01 「杜の都」の象徴となる都心空間をつくる

市民も来訪者も楽しめる定禅寺通や青葉通などの空間づくり、都市空間を活用した多様なアイデアを実践できる機会の創出、居心地の良い空間デザインや良好な景観形成など



02 みどりを楽しめる生活空間をつくる

周辺環境と調和した魅力ある公園づくり、街路樹のきめ細かな管理やみどりを守り育む活動を通じた美しい景観づくり、みどりを楽しむことができる機会の創出など



03 水辺を楽しめる親水空間をつくる

市民や観光客など誰もが親しみ、楽しめる広瀬川などの親水空間づくり、海岸公園やレクリエーション施設などの海辺の資源の活用やネットワーク化による東部沿岸地域一体の賑わい創出など



- 「杜の都のグリーンインフラ」として、「杜の都」の骨格を成すみどりの持つ多様な機能を示しています。
→ P15-P16 参照
- 「都心まちづくりの方向性」として、魅力的な都心に向けたまちづくりの方向性を示しています。
→ P17-P18 参照

② 防災環境都市プロジェクト

目標 持続可能でしなやかな都市環境をつくる

2015年、災害リスクの低減に向けた国際的な取組指針である「仙台防災枠組 2015-2030」と、脱炭素を目指す「パリ協定」が採択され、防災・減災の推進と自然環境との調和は世界的な潮流となっています。「杜の都」の豊かな環境を守り、活かしながら、災害リスクの軽減にもつなげる「防災環境都市」を世界に発信するとともに、災害への対応や環境配慮の視点を日常生活に織り込み、持続可能でしなやかな都市環境をつくります。

実施の方向性

01 防災・減災の備えを日常生活に織り込む

自然災害や感染症などあらゆる危機への対応力の向上、防災・減災の取り組みを通じた地域のつながりの深化、東日本大震災の経験と教訓の国内外への発信、防災・減災の視点を取り入れた新たな製品・サービスの創出など



02 環境負荷の低い生活・ビジネススタイルを定着させる

再生可能エネルギーの導入などエネルギーの地産地消、消費エネルギーの削減や廃棄物の発生抑制、プラスチックの3Rと再生可能資源への代替の推進、食品ロスの削減など



03 都市インフラの持続可能性を高める

グリーンインフラの充実を通じた雨水の保水・浸透機能等の向上、グリーンビルディングの導入等による建築物の環境性能の向上、公共交通・自転車等の移動手段やMaaSなどの生活の利便性を高めるサービスの利用の拡大、災害時における人や物の安定的な輸送環境づくりなど



チャレンジプロジェクト

③ 心の伴走プロジェクト

目標 多様性を尊重し、あらゆる人が安心して暮らせる地域をつくる

地域では多様な人々が暮らしています。それぞれの立場や状況、ライフスタイル、価値観などは様々であるため、地域全体として多様性を包み込み、共生していくことが必要とされています。人々が互いに多様性を尊重して支えあい、つながる仕組みをつくることで、あらゆる人が孤立せずに、安心して暮らすことができる地域をつくります。

実施の方向性

01 多様性が尊重される環境をつくる

年齢・性別・国籍・障害の有無等の多様性への理解が広がる機会の創出、相談や交流ができる場など心の拠り所がある環境づくり、ユニバーサルデザインの推進と合理的配慮の推進を両輪とした、暮らしやすさを実感できる生活環境づくりなど



02 孤立しない、つながる仕組みをつくる

地域住民の顔が見える関係づくりやコミュニティの中で支えあえるつながりづくり、ひきこもりや貧困等の支援を必要とする家庭の社会的自立を後押しする環境づくりなど



03 心を支える環境をつくる

いじめや児童虐待等の未然防止や早期発見・早期対応による子どもたちが安心して育つ環境づくり、メンタルヘルスを支える取り組みや人権を守る取り組みを通じた心を支える環境づくりなど



4 地域協働プロジェクト

目標 多様性を力に変える地域をつくる

地域によって、その成り立ち、魅力、課題などは異なっており、より良い地域づくりを進めるためには、それぞれの状況に応じた協働のあり方を考え、実践していく必要があります。住民と多様な主体が関わりながら、それぞれの知見や強みを活かし、生活に不可欠な移動手段の確保をはじめとした暮らしの改善や地域課題の解決、魅力づくりに向け、多くのチャレンジが生まれる環境をつくります。

実施の方向性

01 多様な協働が生まれる基盤をつくる

公共空間の活用や地域課題の可視化・共有等による興味・関心のある誰もが地域づくりに関わり活動しやすい環境づくり、テクノロジーの活用等による地域課題の解決に効果的・加速的に取り組める環境づくりなど



02 多様な主体の力を地域に活かす

多様な主体のアイデアやノウハウ、ネットワークを活かした、地域の移動手段等の地域課題解決や子育て・教育環境等の暮らしの改善、若者が世代や立場を超えて地域づくりについて考え、実践する機会づくりなど



03 地域の交流を活発化させる

豊かな自然資源や地域特有の生活文化等を活かした地域や多様な主体間の交流が活発化する環境づくり、イベント開催や地域の困りごとの解決に取り組むことができる自由でオープンな交流の場づくりなど



チャレンジプロジェクト

⑤ 笑顔咲く子どもプロジェクト

目標 子どもたちの未来が広がる環境をつくる

持続可能な未来をつくるためには、安心して子どもを産み育てることができ、子どもたちが健やかに成長できる環境が不可欠です。子どもたちの個性を尊重し、地域で見守りながら、子どもたちがチャレンジできる機会を広げることで、人生を切り開く力を伸ばしていきます。そして、大人も子どもとの関わりを通じて学び、社会がより良い方向に進むための好循環を生み出します。

実施の方向性

01 意欲を引き出し、伸ばす教育環境をつくる

子どもたちの自己肯定感や自己効力感を育み探求意欲・コミュニケーション能力を伸ばす環境づくり、学校・地域・家庭による協働の一層の推進、情報化社会・グローバル化に対応した成長の機会の創出、オンライン・対面での活動を最適に組み合わせた学びの機会の確保と質の向上など



02 個性に合わせた成長の機会をつくる

子どもたちが年齢・性別・国籍・障害の有無等の多様性への理解を深め、異なる立場にある人との対話の機会づくり、不登校の児童生徒や発達に不安を抱えている子どもなど誰もが安心して育つ、個性に合わせた選択肢のある学びの場づくりなど



03 子育てを楽しめる環境をつくる

オンラインや対面など様々な手段で妊娠や子育ての相談ができる環境づくり、家庭における学びの充実、子連れで安心して外に出かけて楽しめる環境づくり、様々な遊びを体験できる機会の充実など



⑥ ライフデザインプロジェクト

目標 自分らしい生き方が実現できる環境をつくる

人生100年と言われる時代、学ぶことや働くことに年齢の制限はありません。自分らしく、充実した暮らしを実現するためにも、その前提となる健康づくりへの意識を高めるとともに、文化芸術や歴史などに親しめる多彩な学びの機会があふれる環境やライフスタイルに合わせた活躍の場をつくります。そして、様々な個性が輝き、創造性あふれる豊かな社会をつくります。

実施の方向性

01 まちの至る所で学びと実践の機会がある環境をつくる

文化芸術や歴史などに親しみ創造性が育まれる環境づくり、学びや体験をまちづくりの実践の場につなげる仕組みづくり、音楽や芸術などの創作活動がまちの新たな魅力となる環境づくりなど



02 誰もが活躍できる環境をつくる

一人ひとりが希望するキャリアやライフスタイルの実現に向け多様な働き方ができる環境づくり、年齢・性別・国籍・障害の有無等にかかわらず主体的に活躍できる環境づくりなど



03 ライフステージに合わせた健康を支える

スポーツや運動機会の確保・食生活の改善等を通じたライフステージに合わせた健康づくり、テクノロジーの活用等による医療機関へのアクセスが困難な人も安心して医療を受けることができる環境づくりや効果的な介護予防に向けた取り組みなど



チャレンジプロジェクト

7 と う ほ く TOHOKU 未来プロジェクト

目 標 **世界に発信できる東北発のイノベーションを生み出す**

人口減少などの課題を抱える東北の現状を、新たなイノベーションを生むチャンスと捉えて、未来を描く必要があります。リスクの分散や働き方の多様化による地方への意識が高まる中、企業や人を惹きつけ、社会的・経済的なインパクトをもたらす、地域特性を活かしたイノベーションの創出を目指します。そして、グローバルな視点とローカルな視点を併せ持って戦略的にビジネスや誘客を進め、東北の魅力を国内外に広める役割を果たします。

実施の方向性

01 仙台・東北を舞台にイノベーションを生み出す

東北をはじめ国内外の都市との戦略的提携等を通じた魅力的な事業の創出とグローバルなビジネスの推進、ソーシャル・イノベーションを生み出す起業家をはじめとしたあらゆる事業者が挑戦しやすい環境・風土づくりなど



02 仙台・東北の産業の成長を支える

次世代放射光施設の稼働を契機とした研究開発拠点や関連産業の集積による新しい技術が生まれる環境づくり、仙台・東北の農林水産業の活性化や地場の食に関するビジネスへの取り組み等、経済活動の地域内循環の推進など



03 仙台・東北に世界中から人を呼び込む

仙台・東北の豊かな自然・歴史・文化・祭り等の活用や多彩な体験プログラムの創出、戦略的なプロモーションや安心・快適に旅行できる環境づくり、魅力的なオフィス環境や MICE 等の受け入れ環境の整備など



8 都心創生プロジェクト

目標 人が集い、新しいチャレンジが生まれる都心をつくる

仙台の都心は、多くの人々が集まる交流の要所であり、絶えず人を惹きつける、魅力あふれる場所であることが求められます。そのため、都心の開発を推進し、ビジネスや交流の基盤を整備することで、意欲のある方々が集い、新しいチャレンジが生まれる環境を整えます。さらに、多様な主体の連携を通じて、様々なコンテンツをつくることで、回遊性が高く、働く場、楽しむ場として魅力的な都心をつくります。

実施の方向性

01 投資を呼び込むまちをつくる

老朽建築物の建て替えや高水準な機能を備えるオフィスビルの整備推進、都市公園や道路等の公共空間や民間の遊休不動産等の新たな利活用を通じたまちのリノベーションの推進など



02 イノベーションが生まれる都心をつくる

企業・起業家・教育機関等による新たな事業の創造を応援する文化・コミュニティの構築を通じたスタートアップ・エコシステムの育成、産学官金の技術やノウハウを活用したイノベーションの創出など



03 まちの回遊性を向上する

市役所本庁舎の建て替え・勾当台公園の再整備・音楽ホールの整備検討など、多くの人が集い交流が生まれる魅力的な市街地環境づくり、居心地が良く歩いて巡りたくなる空間づくり、テクノロジーの活用による回遊環境の向上や中心部商店街の活性化など



区ごとの地域づくりの方向性

少子高齢化が進む地域や若い世代が集まる地域など、地域が置かれている状況は様々です。また、東日本大震災の影響や地下鉄東西線開通などの環境変化が生じている地域もあるなど、複雑化・多様化する地域の実情に応じた取り組みを進める必要があります。

このような認識のもと、「ふるさとの豊かな自然を守り、安全・安心な地域をつくる」「支えあい、心豊かに暮らせる地域をつくる」「学びの環境が充実し、子どもたちが健やかに育つ地域をつくる」「個性あふれる賑わいと交流が生まれる地域をつくる」という4つの「地域づくりの方向性」を定めます。

そして、この方向性を踏まえつつ、区民参画イベント等を開催しながら作成を進めてきた「区ごとの地域づくりの方向性」について、区民をはじめ、様々な方々と幅広く共有しながら、個性あふれる地域づくりを進めていきます。



青葉区

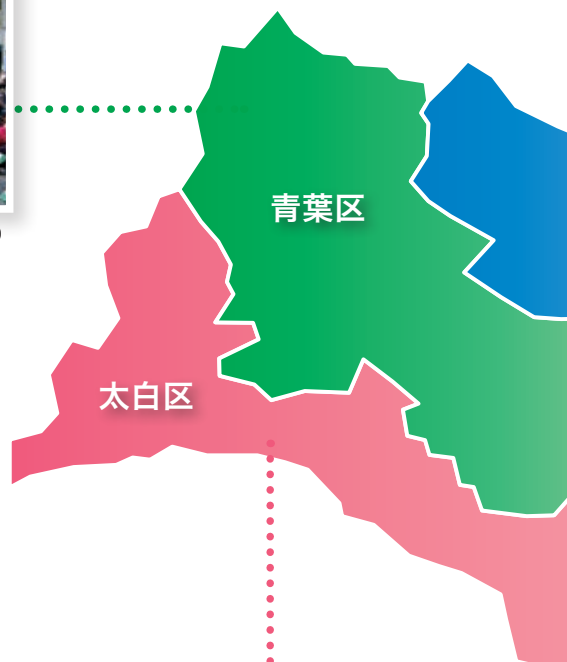
青葉区は、近代的な都市機能と豊かな自然環境が共生する「多様性」が特徴です。都心における都市機能の更新や地域のつながりの確保、宮城地区の少子高齢化のさらなる進展や急激な人口増加に応じた多彩なまちづくりを進めていきます。



仙台青葉まつり

地域づくりの方向性

1. 多くの人が集い、賑わいと交流の場となる活力あるまち
2. お互いを認めあい、支えあう、誰もが健やかに心豊かに暮らせるまち
3. 地域の防災・防犯力を高め、安全で安心して過ごせるまち
4. 杜の都の自然、歴史が息づき、文化の薫るまち



太白区

太白区は、区名の由来である太白山や秋保温泉などの恵まれた地域資源を有するとともに、仙台都市圏南部の広域拠点としての役割を担っています。開発が進むJR長町駅周辺、住宅が連なる名取川右岸地域や丘陵住宅地域、豊かな自然を有する太白山周辺・秋保地域など、多様な地域特性を活かしたまちづくりを進めていきます。

地域づくりの方向性

1. とともに支えあい、誰もが自分らしく健やかに暮らせるまち
2. 災害に強く、安全・安心に暮らせるまち
3. 豊かな地域資源を活かした賑わいと潤いのあるまち
4. 幅広い世代が交流し、集い、活動が生まれるまち
5. 多様な地域特性を活かせるまち



秋保大滝



泉 区

泉区は、充実した都市機能を有する泉中央地区、北部に集積する工業団地、快適な居住環境の丘陵住宅地域、豊かな自然を有する西部地域など多彩な個性を持った地域で構成されているのが特徴です。人口減少や高齢化も踏まえながら、それぞれの地域の特性を活かしたまちづくりを進めていきます。



泉中央駅周辺

地域づくりの方向性

1. 一人ひとりが自分らしい心豊かな生活を送ることができる「安心」のまち
2. 魅力的なコンテンツを上手に活かし、人を呼び込める「にぎわい」のまち
3. みどり豊かな風景や四季折々の自然を身近に感じ、体験できる「癒し」のまち
4. 洗練された街並みや日々の居心地のよさで選ばれ続ける「定住」のまち



宮城野区

宮城野区は、仙台駅東口から仙台塩釜港にかけて広がり、人口構成の特徴は地域によって様々です。開発が進む都心、若い世代が集まる北部や高齢者の割合が高い丘陵部、災害を乗り越えてきた沿岸部など、地域の特性に応じたまちづくりを進めていきます。



榴岡公園

地域づくりの方向性

1. 海辺のふるさとをつくる～集い、想いをつなぐまち～
2. 都心のシンボルエリアをつくる
～賑わいをつくり、可能性を活かせるまち～
3. 心地よいコミュニティをつくる
～支えあい、安心して暮らし続けられるまち～
4. 新たな魅力に出会える場をつくる
～ふるさとを知り、元気を体感できるまち～



若林区

若林区は、地下鉄東西線の開業により、人口が大きく増加しています。地下鉄開業に伴う生活環境の変化やコミュニティづくり、大規模な産業集積や歴史的資産の存在といった区の特徴、災害からの復興を見据えたまちづくりを進めていきます。

地域づくりの方向性

1. 田園・水辺・生物と共に生き、自然災害の経験を日常に活かすまち
2. 新旧の住民が混ざりあい、支えあうあたたかなまち
3. 歴史のなかで暮らし、地域の魅力を育てあうまち
4. 多様な協働を通じて、新しい変化を生み出すまち



沿岸部

未来をつくる市政運営

市政運営の基本姿勢

1 持続可能な都市運営の基盤を構築する

地域経済の活性化による税源涵養^{かんよう}や民間活力の導入などにより、実行性の高い行財政運営を推進するとともに、公共施設マネジメントの推進やデータに基づく政策形成を進めます。また、災害や感染症に対して、危機に対応できる人材の育成や非常時においても市民サービスを維持することができる組織づくりなどを進め、柔軟に対応できる危機管理体制を構築します。

2 協働によるまちづくりを加速させる

政策形成に多様な方々の参画を促進するとともに、住民主体による自発的なまちづくりを支え、市民協働や公民連携を加速させながら、地域の課題解決や活性化に取り組みます。また、区役所において、地域の状況にきめ細かく対応できる体制づくりを行うほか、市民協働や地域づくりを推進する職員が育つ環境をつくりまします。

3 社会の変化にしなやかに対応する組織をつくる

民間事業者や教育機関等の知見を積極的に取り入れ、新たな発想の実現に挑戦しやすい組織風土をつくりまします。また、職員が意欲を持って能力を発揮できる環境づくりや多様な働き方ができる職場環境の実現などにより、業務の質や効率性の向上を図るほか、職員一人ひとりの知識やスキルを高める取り組みを進めます。

4 デジタル化により豊かな市民生活を実現させる

デジタル技術を市民サービスの利便性向上、課題解決やコミュニケーションの促進に活かすなど、多様な選択肢があり、豊かで安心して生活できる環境をつくりまします。また、産学官金の連携等により、先進的な実証実験やスマートシティ型のまちづくりを推進するなど、新たな価値の創造に取り組みます。

5 大都市としての責任を果たす

経済、交流、文化の面で高度な都市機能を活かして、東北全体の活力を生み出していきます。また、地方分権や広域連携を進めることで、大都市にふさわしい権限と税財源の確保を図り、スケールメリットを発揮しながら市民サービスを提供できる環境を構築します。

都市構造形成の方針

「杜の都」の都市基盤を仙台のシンボル、市民の誇りとして、次世代に引き継いでいくため、機能集約型の都市構造の形成と公共交通を中心とした交通体系の構築を一体的に進めると同時に、みどりのネットワークや健全な水循環の形成を図り、自然と調和した持続可能な都市づくりを進めます。

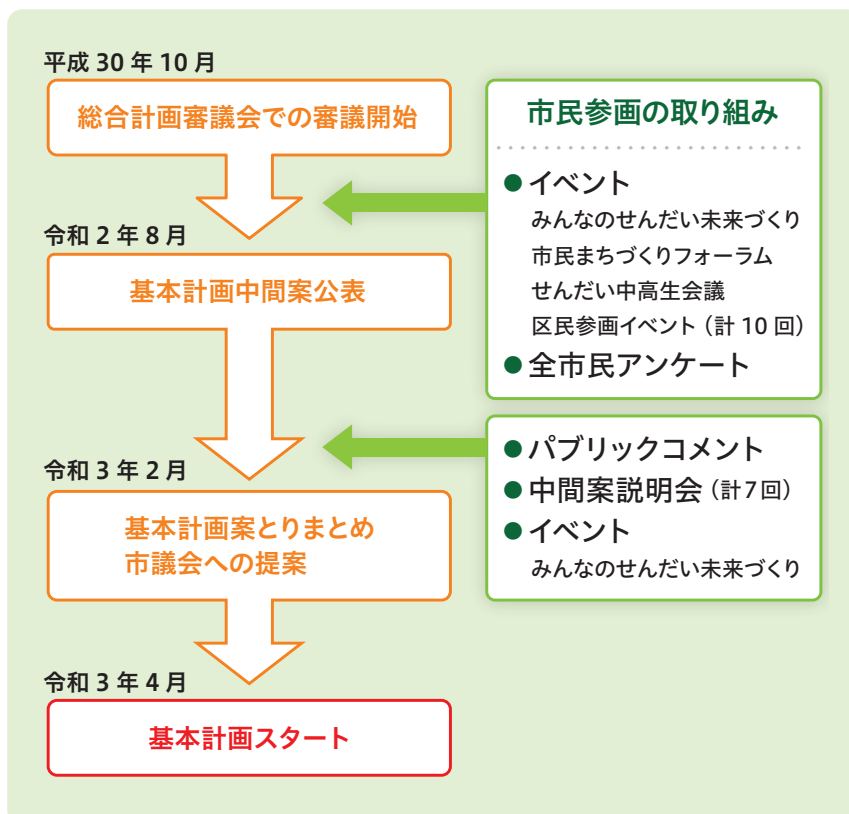
施策の体系

目指す都市の姿の実現に向けて、仙台市役所が多様な主体との協働などを通じて取り組む施策を体系化して実施していきます。

計画の推進

- 基本計画を幅広く共有し、より多くの人々に計画の実現に向けたチャレンジに参加してもらうことができるように、計画の内容について積極的な情報発信を行います。
- 多様な主体の参画のもと、目標の実現に向けた取り組みについて考え、新たな協働を生み出す機会をつくります。
- 基本計画を推進するため、概ね3年ごとに実施計画を策定するとともに、毎年度予算編成にあたっては、社会情勢等を勘案しながら、改善の視点を持って事業の組成を進めます。
- 実施計画の進行管理として、市民アンケートや自己評価などの評価・点検を行い、進捗状況を市議会に報告するとともに、市民に公表します。
- 実施計画の改定に際しては、評価・点検の結果、社会情勢や民間の動向等を踏まえて、より事業効果を生み出すことができるよう必要な見直しを行います。

策定の経過



市民まちづくりフォーラム



せんだい中高生会議



区民参画イベント



みんなのせんだい未来づくり
（令和 2 年度）

審議経過

- 総合計画審議会 計 11 回開催
- 地域とくらし部会 計 4 回開催
- まちと活力部会 計 4 回開催



総合計画審議会

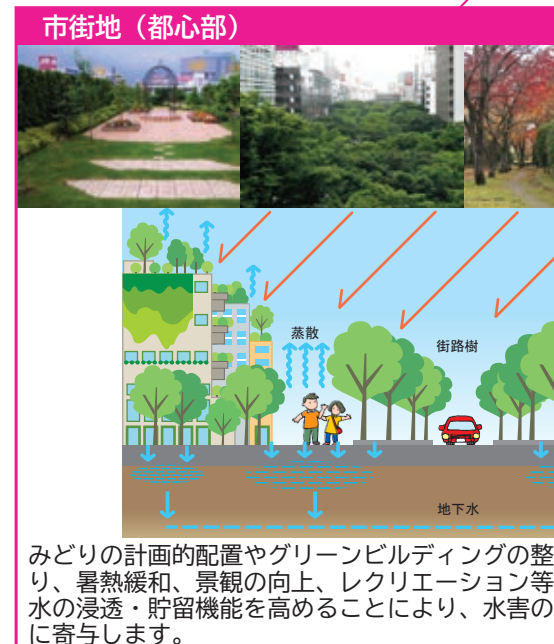
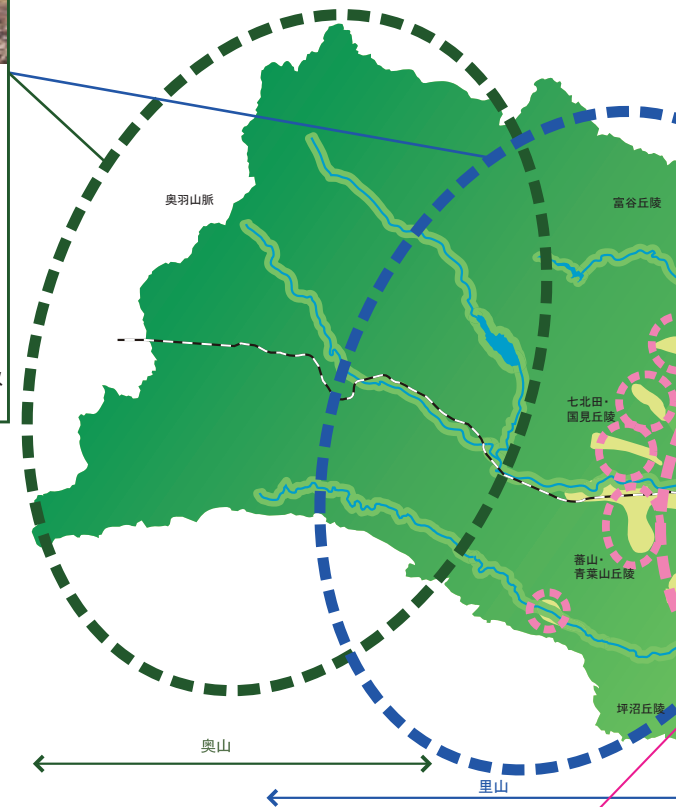
杜の都のグリーンインフラ



樹林を保全し適正に管理することで、生物多様性の保全、CO₂吸収、水質浄化、水源の涵養等の機能を発揮します。

凡例

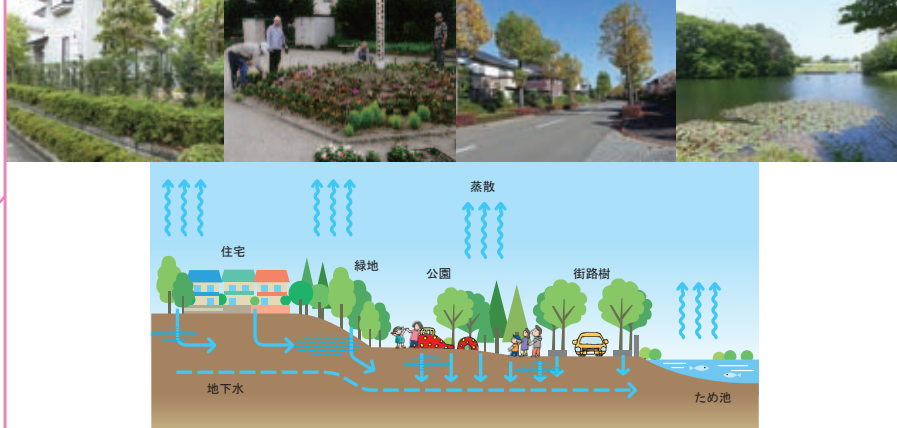
	山地・丘陵地のみどり
	田園のみどり
	水が育むみどり軸
	みどりの市街地
	海岸のみどり
	みどりの拠点



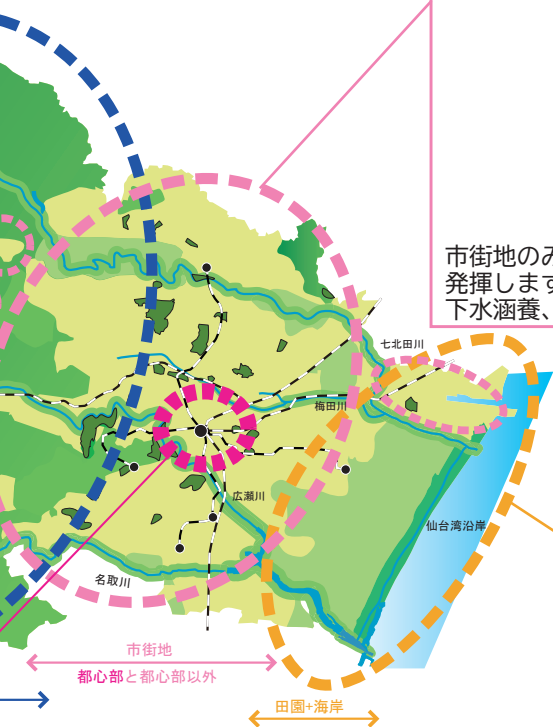
仙台は、森林や里地里山、市街地のみどり、東部の農地、源流から河口に至る河川など、市域に多様な自然がつながりを持って分布している稀有な都市です。

これらの骨格となる多様なみどりは、水害の軽減、水源・地下水涵養、水質浄化、利水、微気象の緩和などの様々な役割を果たしています。

市街地（都心部以外）



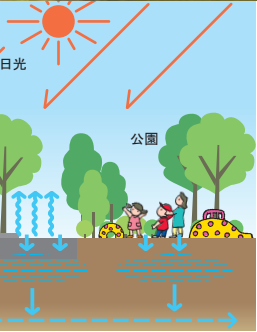
市街地のみどりは景観の向上、レクリエーション、コミュニティ形成等の機能を発揮します。また、雨水の浸透・貯留機能を高めることにより、水害の軽減、地下水涵養、水質浄化等に寄与します。



田園・海岸



夏季の冷たい海風は東部の平坦な地形を通して内陸まで届き、市街地の温度の上昇を緩和しています。沿岸部の防災林は防潮・防風機能を確保し、防潮堤やかさ上げ道路等による津波被害を軽減する多重防御の機能を高めます。農地、湿地、屋敷林や樹林地の保全により生物多様性確保、地域固有の景観保全に寄与します。



備促進に伴う緑化推進等による機能を発揮します。また、雨軽減、地下水涵養、水質浄化等

都心まちづくりの方向性

都心まちづくりの基本方向

都心機能強化ゾーン

仙台駅周辺や主要な通りを中心に、広域的な商圈を持つ商業機能や、東北の中核機能を担う業務機能が高密度に立地する仙台都心の核心として、国際競争力のあるビジネス交流の環境づくりなど、新たな価値や魅力を生み出す。

商業・業務・居住ゾーン

都心機能強化ゾーンを取り巻く、暮らす・学ぶ・働く・楽しむなどの多様な機能が調和した利便性の高いゾーンとして、これらの機能を掛け合わせるにより、都心のエリア価値を高める。

各ゾーンの裏路地などは、昼夜楽しめる多彩なローカルコンテンツを集積するなど、集客・主要スポットとともに都心の賑わいを面的につなげ、周辺エリアに波及させながら、都心全体の魅力を高める。

みどりを感じられる豊かな都市空間の形成、防災力や環境性能の向上など、安全・安心で快適な環境づくりを進めるとともに、国内外へ積極的に発信することにより「杜の都」「防災環境都市」のブランド力を高める。

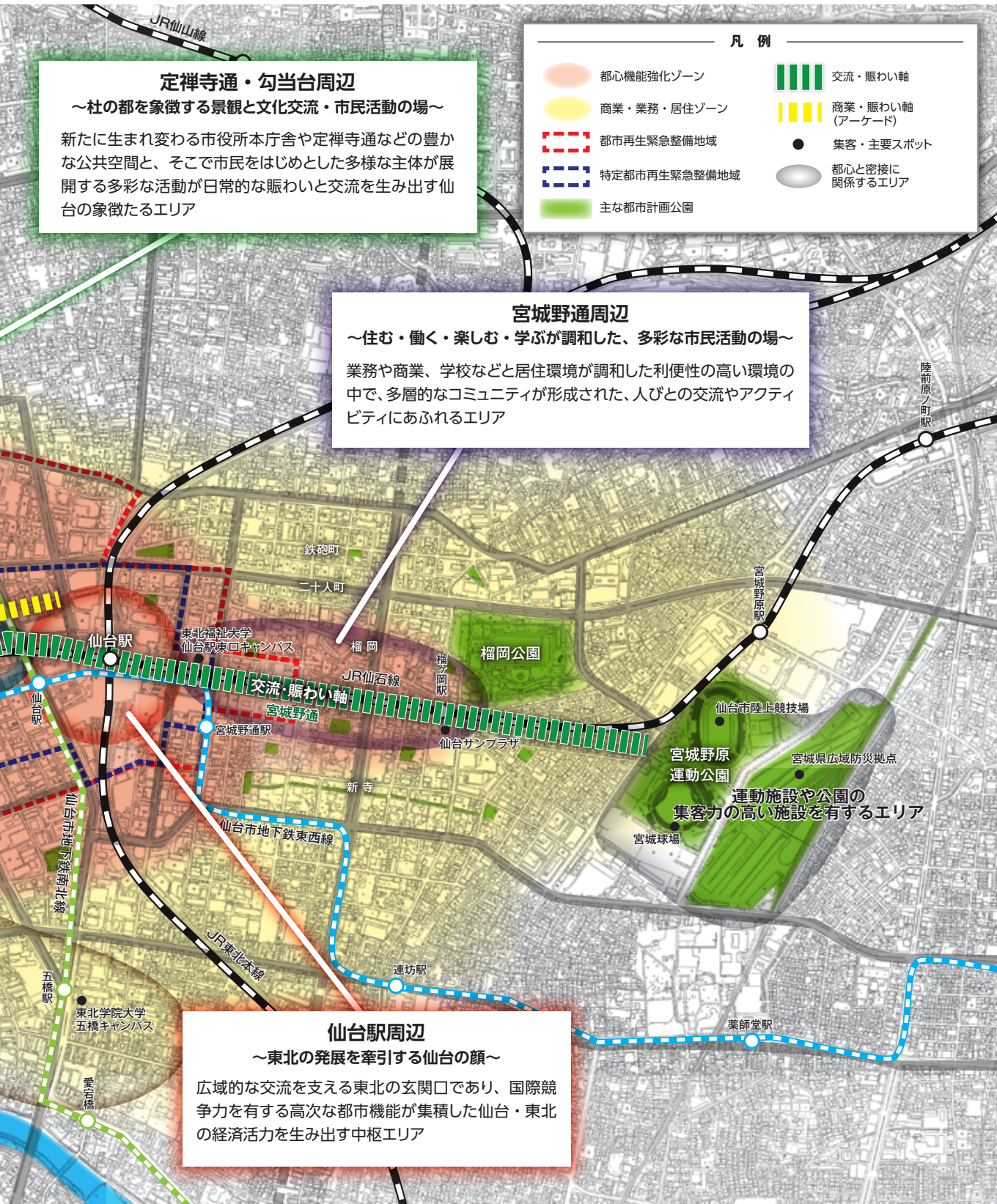


青葉通・一番町周辺

～賑わいに満ちた商いと出会いの場～

青葉通やアーケードを軸に、ビジネス・商業・文化を中心とした盛んな交流が、地域に“出会い”の機会と“賑わい”をもたらすエリア

藩政時代からのみどり豊かで潤いのある美しい「杜の都」の都市環境や、「防災環境都市」としての都市個性を基盤に、その質を高めながら都心の機能強化を図り、東北をグローバルに牽引する中枢都市として、国際競争力を有し、安全で賑わいと交流、継続的な経済活力を生み出し続ける躍動する都心を目指します。



仙台市基本計画〈概要版〉

令和3年3月

仙台市まちづくり政策局政策企画部
政策企画課
〒980-8671
仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
TEL：022-214-1245
FAX：022-268-4311